

常任委員会

総務まちづくり常任委員会

移住・定住の取り組みについて

【岡山県和気町】

和気町では、移住受け入れ体制の整備や子育て教育環境の魅力化、移住定住事業を優先施策として取り組み始め、移住定住専門ホームページ wakesum（ワケスム）の開設、移住専門相談窓口の設置、移住推進員を配置し、移住者目線の施策を展開し先進的な取り組みを行い、実際に7年間で約700人移住者を増やした実績がある。

所感

コンサルタント等を使わず自分たちの発想・アイデア・創意工夫で数多くの施策の実現を果たしている点は、特筆すべき点だと思う。

計画を計画倒れにせず、確実に実行へと移す町全体のエネルギー、特に移住推進員の方に熱意を感じた。

東京一極集中は現在でも続いており、特に23区への人口流入は多い。東京都への人口流入自体は多いことから、その一部であっても当町を選んでくれるように移住定住施策に取り組んでいく必要がある。

当町として取り入れられる点は取り入れ、今あるものを生かしつつ、喫緊の課題である人口減少問題への対策として移住定住施策にスピード感をもって取り組まなければならないと強く感じた。



観光振興について（古民家再生について） 道の駅 山陽道やかげ宿について（現地視察）

【岡山県矢掛町】

矢掛町は2つの市街地と1つの商業地区を持ち、ここ数年は、観光地化が進んでいる。

地域活性化の取組として、観光振興と古民家再生の修景技法を採用し、賑わいをもたらしている。

古民家再生では、敷地や規模に応じてインバウンド・外国人旅行者が好むような、また、SNS映えするホテルへの再生や温泉館への再生などを図っている。

「道の駅山陽道やかげ宿」は、従来の道の駅的な役割だけでなく、情報・魅力発信の拠点とし、これにより、商店に観光客を誘致している。

所感

印象に残る点は、①町長をはじめ職員が地域の住民・関係者を交えて柔軟な発想のもと、民間のノウハウ・意見を取り入れながら事業展開をしていること。②公営企業ではなく、民間資本を9割、1割を行政側の支援として会社を設立した上で、民間のノウハウ・意見を反映しやすい母体を構築していること。③道の駅「山陽道やかげ宿」を従来の道の駅としての販売店ではなく、情報の発信基地・拠点として宿場町通りなどへ観光客を誘導する動線を展開していることなどである。

町職員・関係者は、様々な情報をしっかりと分析し、地域特性を活かしながら、民間のノウハウ・意見を取り入れながら、事業展開をする等、当町としても学ぶべき点、参考にすべき情報を得られた。



委員

委員長：平野隆史 副委員長：玉井大 議長：東亨

委員：嘉倉治／川脇敏徳／鈴木正彦／塙康平

視 察 レ ポ ー ト

厚 生 文 教 常 任 委 員 会

荒尾市・長洲町学校給食センターについて

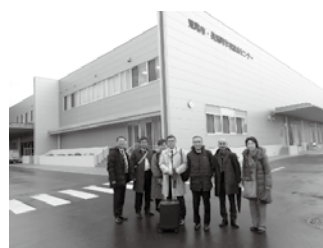
【熊本県 荒尾市・長洲町新学校給食センター】

整備前の給食センターの開設は1972年であり、建物の老朽化が進んでいることに加え、旧建築基準法の下で建設され、耐震性の確保が必要となっていた。また、学校給食衛生管理基準の環境を確保するのが難しい状況にあり、衛生水準の確保や調理員の労働環境の悪化が懸念されている状況であった。そのため、施設の安全性、衛生環境、適切な労働環境が確保される施設・設備が必要であることから、新学校給食センターの整備に着手したものである。

所 感

荒尾市・長洲町新学校給食センターは、令和4年から供用開始された最新設備の学校給食センターであり、ドライフロアはもちろんのこと、食材の搬入から調理、給食の搬出ルート的一方通行動線、同センター職員の動線もしっかりと管理されており、汚染・非汚染区域の区分がしっかりと確保された高い衛生水準が確保された最新鋭の施設と言える。

昭和に建設された当町学校給食センターとは比べようもないが、逆に前時代的な施設で、安全確実に学校給食を提供している当町学校給食センター職員の努力を評価すべきと考える。



甲佐町子ども議会について

【熊本県甲佐町】

平成21年6月定例会の一般質問で、将来を担う子どもたちが、住みよい町を造るために純粋な立場から自分の意見、夢を話してもらう機会をつくること、また町の仕事や議会の仕組みを勉強し、積極的にまちづくりに参加できるよう、子ども議会を開催することができないかとの提案があり、執行部側もそれに答えて平成21年10月に第1回子ども議会を開催した。

子ども議会は本会議の一般質問と同様な形式で本格的に進められており、質問内容も多岐におよび、議員と同様な質問が行われていることから、部分的に反映され、実行された施策もあるとのことであった。

所 感

甲佐町の子ども議会は、本会議と同様な形式で行われる本格的な会議である。一般質問の内容も、彼らの年代が感じる課題や不安が反映されている。質問書作成までのプロセスも相当の準備をして臨んでいる様子が読み取れ、また行政を自分ごととして捉え「住みよい町をつくるため」の意識の高さに驚かされる。子ども議会により将来ある子どもたちの社会参画の意識や民主的価値観、意思決定プロセスを実際に学べる教育的側面と同時に、子どもたちの意見を真剣に受け止め、実現可能であるかを検討し、実際の施策や行政の動きにどう反映させていくか、この相互関係そのものが継続可能な取り組みとなっていくには不可欠だとも感じた。こうした経験を経た子どもたちが、町政を自分ごととして感じながら大人と関わり合い、成人した後もこの街に住み続け、地域社会の発展に貢献できる仕組みづくりのスタートとして、日の出町でも子ども議会の開催を前向きに検討していきたい。



委 員

委員長：濱中直樹 副委員長：大澤弘子 副議長：縄井貴代子

委員：濱中映慈／萩原隆旦／木住野智行／下向辰法